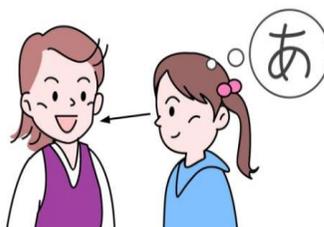


令和7年度 難聴生徒・難聴学級 理解ハンドブック

～難聴生徒を教えている先生方へ～



港区立小中一貫教育校御成門学園
御成門中学校 難聴学級 あおい教室

電話：03-3436-3568

2 難聴生徒について

令和7年4月1日現在

	7年	8年	9年	計
校内生徒	1名	1名	0名	2名
校外生徒	0名	1名	0名	1名
計	1名	2名	0名	3名

在籍生徒聴力	
軽度難聴 (21~40dB)	3名
中等度難聴 (41~60dB)	0名
高度難聴 (61~80dB)	0名
重度難聴 (81~110dB)	0名

3 校内環境について

「聴覚」環境

- ・騒音軽減のため、使用教室では机椅子に中古硬式テニスボール等を装着することが望ましい。
- ・運動会や校外学習など屋外の場面でも難聴補助マイクを活用する場合あり。
- ・必要に応じて、スピーカーなどを活用。

「視覚」環境

- ・朝礼や集会、行事では、パソコン要約筆記での文字情報を活用。
- ・儀式では要約筆記またはスクリーンに文字情報を活用。
- ・場合に応じて、筆談ボード、手話通訳など。
- ・一部の授業（数学、理科、社会）でも要約筆記あり。

4 難聴生徒とのコミュニケーションについて

- ・口元が見えるように正面から、はっきり、ゆっくり話す。マスクは外す。
- ・静かな環境の中で、2~3mの距離で話す。
- ・視覚情報（表情、身振り、絵、筆談など）が有効。
- ・正確に伝わったかの確認には復唱。

5 難聴生徒のいる授業での配慮について

- ・話し方は「難聴生徒とのコミュニケーションについて」を参照。
- ・座席は前方 2・3 番目がよい（1 番前だと周りの様子が分かりづらいため）。生徒の間こえ方によっては廊下側、窓側等にも配慮。
- ・視覚情報を活用する。大事なポイントは口頭説明だけではなく書いて示す。
- ・プロジェクター、デジタル教科書、書画カメラ等の ICT 機器の活用は効果的。
- ・必要に応じて難聴用マイクを活用する。
※体育（水泳等）では補聴器・人工内耳を外す時があるため、配慮が必要。

6 難聴学級について

- ・通級制。自立活動及び教科の補充指導を個別または少人数の形態で行う。
- ・校内生：聞き取りを苦手とする教科の取り出し授業を行う。教科は要相談。毎日、聞こえの終学活で作文指導（その日にあったこと、次の日の予定など）あり。
- ・校外生：週に1～2回、難聴学級に通級（主に放課後）。
- ・定期考査の英語等リスニング試験の際は別室で受験する。できれば個別。
- ・難聴学級独自の行事（聴力測定、小中交流会、卒業を祝う会他）あり。

～難聴学級より～

港区内中学校唯一の難聴学級「あおい教室」では通常学級生徒への理解啓発として、障害理解授業を実施させていただきます。

難聴生徒が在籍する学級担任の先生方と、電話や連絡ノートにてこまめに情報交換をさせていただき、難聴生徒が安心して学校生活を送るための協力をさせていただきます。

難聴生徒が在籍学級から難聴学級に通級する場合、授業の教科担任の先生方から、在籍学級での指導内容や指導計画等の打ち合わせをし、難聴生徒に教科の補充指導をします。在籍学級での授業に難聴生徒が参加する場合は、難聴学級担任が同席して要約筆記をすることもあります。

卒業学年時は進路活動の際、入試における「特別措置申請」等の独自の動きがあるということをお知りおきください。

聞こえにくさのある生徒が「なんとなく聞き逃す・やり過ごす」ことを当たり前とせず、情報を得る習慣を身に付けける協力をさせていただきます。

本冊子は、難聴生徒・難聴学級理解についての概要です。詳細については、いつでも港区立御成門中学校難聴学級「あおい教室」へ、お問い合わせください。

あおい教室 担任 兼平真澄
令和7年7月7日作成

